

卒業後3年次アンケート（2020年度実施）集計結果

京都大学文学部・文学研究科では、卒業・修了して社会に出られた方や進学された方などに改めて本学部・研究科を振り返って評価していただくために、卒業・修了後3年目の方を対象にアンケートを実施し、その結果を公開しています。

ご協力いただきました卒業生・修了生の皆様に、この場をお借りして、お礼申し上げます。

【実施時期】

2020年 11月 25日～ 12月 13日

【実施方法】

連絡先住所が判明する2017年度卒業生 144名 に依頼状を郵送し、京都大学アンケート支援システムにて回答をお願いした。卒業生からの回答数は34、回答率は23.6%で、昨年度（回答数29、回答率18.2%）よりも回答数、回答率とも若干上昇した。

【結果の概評】

Q.06 「振り返ってみて、あなたは文学部で学べたことに満足していますか」では、「十分に満足している」および「それなりに満足している」との回答がともに44%あまりで、両者を合わせると、ほぼ90%が「満足している」と回答している。この数字は、前年度からほとんど変化しておらず、文学部の教育に対する満足度は高水準を維持していることが評価することができる。

Q.03 「文学部（文学研究科）での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立つ能力や資質について以下より選択してください」（複数選択可）への回答では、選択率の高かった順に、「A：一般的な教養や知識」、「O：自学自習の姿勢」、「C：専門分野の知識と技術」、「F：外国語の能力」、「L：自分で問題を発見し、解決を図る能力」が上位を占めている。これらは、これまでの調査でも上位に入っていた項目であるが、「O：自学自習の姿勢」、「C：専門分野の知識と技術」の選択率が前年よりも大幅に増加している。本年度のアンケート回答者の9割近くが「社会人」であったことを踏まえるならば、本学部の専門教育さらには4年間の大学生活で養われた知識や勉学・研究の経験が一般社会でも役立つものであったと評価されていることが窺われる。

他方、同じ問いに対して選択率が最も低かった項目は、「H：実行力」、「K：リーダーシップ」であるが、これも例年通りの傾向である。また、「G：企画力や創造的思考力」、「J：コミュニケーション能力」の選択率は前年度より顕著に増加しているものの、依然として低水準にある。これら選択率の低い項目は、本学部のこれまでの教育においてとりわけ重視してきた内容ではないものの、本アンケートの結果は将来的に本学部の教育のあり方を再検討する過程で検討材料のひとつとされるべきかもしれない。

【自由記述欄】

Q.04 「文学部での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に教えてください。」

全体的な傾向は、従来と大きく変わらない。様々な分野の研究課題を自由に決定できるこ

とや、学生の自主性を重んじる指導、そして、文献や資料の調査を通じてみずからが問題を設定し回答を探究する経験を高く評価する回答が見られたことは、本学部の教育方針が卒業生に高く評価されていることを示している。また、幅広い授業を自由に選択できることや、所蔵する文献・資料の充実など、ソフト・ハード両面における本学部の研究環境を高く評価する記述も見られた。

以下に特徴的な回答を列挙する。

- ・社会のできごとに目を凝らし、疑問に思ったことを攻撃せず探求する姿勢を教えてもらった。人文学の知識というよりも、考え方の姿勢を知ることは自分の人生の中でとても大きかった。
- ・基本的に自由放任で、興味のあることを好きなように勉強できたことが良かった。社会人になっても結局何か課題や興味のあることを見つけて考えることには変わりはないので役に立ったと思う。
- ・史料や文献を丁寧に読んでいき、それに基づき各自が研究したことを発表し討論する、というスタイルによって、自分の考えをいかに分かりやすく他者に説明するか、という技能を身につけられたのはよかった。
- ・課題を与えられるのではなく、自ら探求テーマを探さなければいけない点は、難しくも力になったと感じています。
- ・自分から求めない限り、基本的にサポート的なものは提供されないので、自分で調べ、自分で解決する力がさらに向上したと考えています。自分でできるところまで学習した上で、教授に質問すると、さらに一段上のレベルに上がることができました。
- ・史料、文献との真摯な向き合い方が学べたところ。また多様な人々との交流ができ、視野や価値観の拡張ができたところ。
- ・授業でお話した先生の本が手軽に買えたり、何百年も前の資料が実際に保管されていたりして、感動した覚えがあります。
- ・いろいろな講義を聴くうちに、講義どうしの内容が自分の中で勝手に繋がって行って、嬉しかったです。

Q.05「文学部での勉学について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に教えてください。」

多様な回答があったが、大別するならば、① Q04への回答では概して高く評価された、自由度の高さや自主性の尊重を、逆に研究上の指導やサポートの不十分さとしてネガティブに評価するもの、② カリキュラム、学年暦、学生生活へのサポートなどの不十分さを指摘するもの、に大別できる。とりわけ②については、今後、検討されるべき課題であろう。

まず、①に分類できる回答を例示する。

- ・研究のやり方、考えの組み立て方、手の動かし方、を分からないまま卒論に突入した。勉強は好きだけれど、研究のことは何もわかっていなかったんだと卒論執筆中に気づいたが、どうしようもなかった。やり方を押し付けることは確かに良くないのかもしれないが、こんな研究の手順があるよ、ということは何パターンか体験できる小さいゼミがあればよかった

と思う。勉強好きの人がすなわち研究のやり方を知っているわけではない。アウトプットのやり方が知りたかった。今でも、それに早く気付かなかったことを後悔している。

- ・研究室の活動頻度が低かった点は、もう少しサポートが有るとありがたいと感じました。
- ・よくいえば自由ですが、自分の専攻では卒業論文を先生方に見ていただく機会がほぼありませんでした。提出まで本文の確認はしないという方針だったようで、もっと研究室に自分から足を運べばよかったのかもしれませんが、研究がどういうものか、あまり分からないまま卒業してしまったように感じています。

②に分類できる回答を例示する。

- ・交換留学が難しい点。二年次以降に思い立った場合確実に留年するため断念せざるを得ないから。
- ・教員免許取得に必要な単位としてカウントされる講義が減っていること。免許取得の負担が増している。
- ・専修や研究室が細分化されているわりに、専修登録までの猶予が短い。文学部科目は2回生から受講可能なものも多いのに、2回生の10月には専修を選ばなくてはならないため、実質半期しか吟味する機会がない。これと関連して、近い専門分野の講義をなるべく同じ曜時限に被せないでほしかった。
- ・こちらは文学部というより京都大学全体の話だと思いますが、学生が何か困ったりもやもやしたりした時のサポートがもっと受けやすいといいなと思いました。自学自習ができる優秀な学生が多いのは分かりますが、わたくしは学生生活の後半で演習や卒論・就職活動が上手くできず、周りと同じようにできない自分が悲しかったです。社会人になっても体調不良ややりづらさが続くので、検査したところ自閉症スペクトラム障害だと分かりました。自分の障害がもっと早く分かっていたら、他の学生には自然にできることができないというのを学校関係者の方々が知っていてくださったら、もっと納得のいく卒業論文が書けたのではないかと、今でも一抹の寂しさがあります。これから京都大学にやってくる少数派の学生さんたちが、ひとりひとり安心して学べるように、さらに手を差し伸べてもらえますと幸いです。それは自分から動くべきだろう、と思われる方もいるかもしれませんが、自分で気付いたりひとりで何とかしたりしづらいのが発達障害なのです。
- ・教室や研究室の設備面が質素な上、老朽化している印象を受けた。もう少し明るい雰囲気にしていただけるとありがたいと思う。また、文学部東館は日中でも入りにくく、耐震性も不安を感じるため、建て替えを検討する必要があるのではないかと。

以上

アンケート名 2020年度 卒業後・修了後3年次アンケート

部局 文学部

対象者数 144

回答者数 34

回答率 23.6

結果 (Q.01) あなたが属していた系(専攻)を教えてください。

- A: 哲学基礎文化学系(思想文化学専攻) (2票/5.9%)
- B: 東洋文化学系(文献文化学専攻・東洋系) (7票/20.6%)
- C: 西洋文化学系(文献文化学専攻・西洋系) (4票/11.8%)
- D: 歴史基礎文化学系(歴史文化学専攻) (5票/14.7%)
- E: 行動・環境文化学系(行動文化学専攻) (12票/35.3%)
- F: 基礎現代文化学系(現代文化学専攻) (4票/11.8%)
- G: 無回答 (0票/0%)



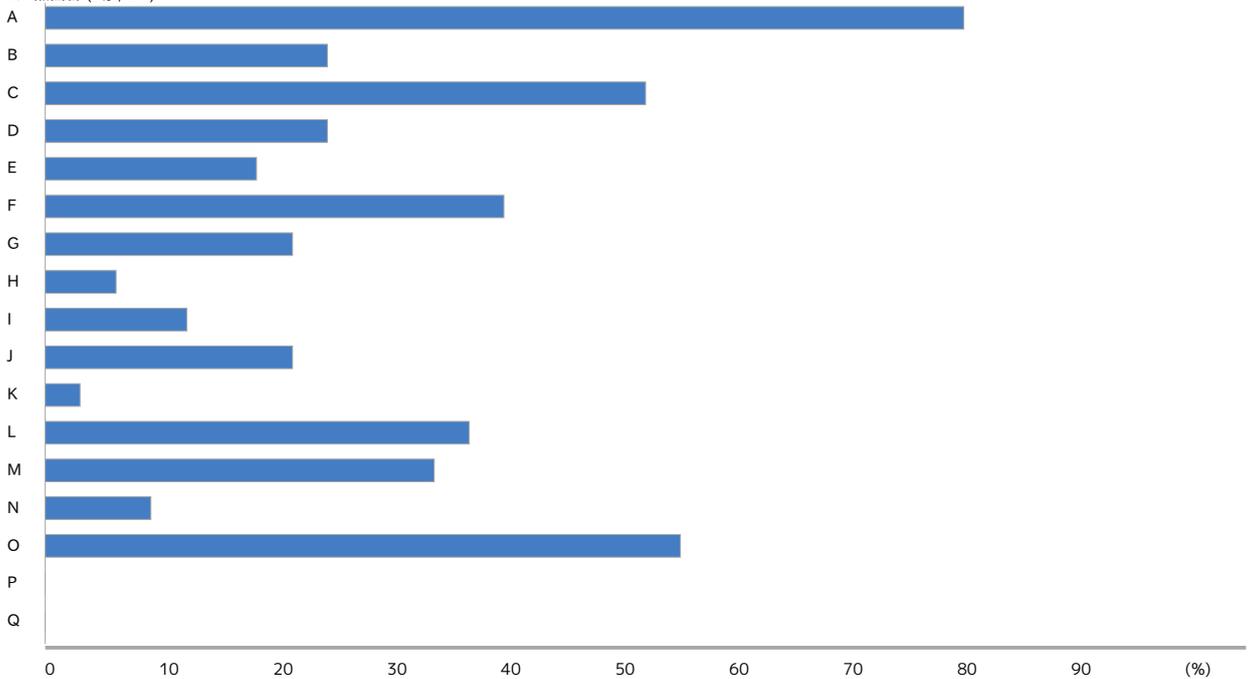
(Q.02) あなたの現況について教えてください。

- A: 社会人(一般企業等で就労) (22票/64.7%)
- B: 社会人(官庁・地方自治体等で就労) (6票/17.6%)
- C: 社会人(教員・司書等の専門職として就労) (1票/2.9%)
- D: 社会人(非就労) (1票/2.9%)
- E: 学生・院生(京都大学) (2票/5.9%)
- F: 学生・院生(他の大学) (2票/5.9%)
- G: 学生・院生(その他の学校) (0票/0%)
- H: その他 (0票/0%)
- I: 無回答 (0票/0%)



(Q.03) 文学部(文学研究科)での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について、以下より選択してください(複数選択可)。

- A: 一般的な教養や知識 (26票/76.5%)
- B: 社会的な常識 (8票/23.5%)
- C: 専門的な知識と技術 (17票/50%)
- D: 専門分野の研究能力 (8票/23.5%)
- E: 国際感覚や国際性 (6票/17.6%)
- F: 外国語の能力 (13票/38.2%)
- G: 企画力や創造的思考力 (7票/20.6%)
- H: 実行力 (2票/5.9%)
- I: 協調性やチームワーク (4票/11.8%)
- J: コミュニケーション能力 (7票/20.6%)
- K: リーダーシップ (1票/2.9%)
- L: 自分で問題を発見し、解決を図る能力 (12票/35.3%)
- M: 自己管理能力 (11票/32.4%)
- N: 倫理観 (3票/8.8%)
- O: 自学自習の姿勢 (18票/52.9%)
- P: その他 (0票/0%)
- Q: 無回答 (0票/0%)



(Q.04) 文学部（文学研究科）での勉強について、特にどのような所が良かったか、自由に記述してください。

(Q.05) 文学部（文学研究科）での勉強について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に記述してください。

(Q.06) 振り返ってみて、あなたは文学部（文学研究科）で学べたことに満足していますか。

- A: 十分に満足している。(15票/44.1%)
- B: それなりに満足している。(15票/44.1%)
- C: どちらとも言えない。(3票/8.8%)
- D: あまり満足していない。(0票/0%)
- E: 満足できず、後悔している。(1票/2.9%)
- F: 無回答(0票/0%)



修了後3年次アンケート(2020年度実施)集計結果

京都大学文学部・文学研究科では、卒業・修了して社会に出られた方や進学された方などに改めて本学部・研究科を振り返って評価していただくために、卒業・修了後3年目の方を対象にアンケートを実施し、その結果を公開しています。

ご協力いただきました卒業生・修了生の皆様に、この場をお借りして、お礼申し上げます。

【実施時期】

2020年 11月 25日～ 12月 13日

【実施方法】

連絡先住所が判明する2017年度の修了生(修士61名、博士26名)に依頼状を郵送し、京都大学アンケート支援システムにて回答をお願いした。修士課程修了生の回答数は13(回答率21.3%)、博士後期課程修了生からの回答数は10(回答率38.5%)で、何れの回答数、回答率も昨年度より上昇しているが、全修了生に対する回答者数の割合は依然として低い状況が続いているといわざるを得ない。

【結果の概評】

〈修士課程〉

Q.06「振り返ってみて、あなたは文学研究科で学べたことに満足していますか」では、全員が「充分」または「それなり」に「満足している」と回答した。文学研究科修士課程の教育に対する満足度の高さが窺われる。

Q.03「文学部(文学研究科)での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について以下より選択してください」(複数回答可)では、「L: 自分で問題を発見し、解決を図る能力」、「C: 専門的な知識と技術」、「D: 専門分野の研究能力」、「O: 自学自習の姿勢」が、例年と同様、選択率の上位となっている。これらは、修士課程の教育目標と大きく重なる項目であり、修士課程の専門教育が高い効果を上げていることが窺われる。一方で、「E: 国際感覚や国際性」、「J: コミュニケーション能力」の選択率が昨年度より低下していることはいささか気懸かりであり、今後の動向を注視していく必要がある。

〈博士後期課程〉

Q.06「振り返ってみて、あなたは文学研究科で学べたことに満足していますか」では、1名が「満足できず、後悔している」と回答したのを除き、全員が「十分に満足している」と回答した。全体的に博士後期課程の教育に対する評価はきわめて高いものの、いわば二極化的にそれをきわめて低く評価する回答がごく少数とはいえ存在していることは、昨年度と同様である。高度の専門的能力を涵養することを目指す性格上、博士後期課程の教育においてすべての修了生に満足を与えることは困難であるものの、いわば不満足数が一定程度存在していることには留意してよい。

Q.03「文学部(文学研究科)での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について以下より選択してください」(複数回答可)では、やはり「C: 専門的な知識と技術」、「D: 専門分野の研究能力」、「L: 自分で問題を発見し、解決を図る能力」、「O: 自主学習の姿勢」の選択率が高く、回答者の割合は修士課程修了者よりも一段と高くなっている。高度の専門的知識の涵養

を目指す博士後期課程の教育目標が概ね達成されていることを示す内容であると評価できる。その他の項目の選択率も含め、博士後期課程修了者からの回答内容は例年通りであるが、「G: 企画力や創造的思考力」、「I: 協調性やチームワーク」、「J: コミュニケーション能力」を選択した者が2年連続して皆無であったことは、さすがに一度検討されるべき点かもしれない。

【自由記述欄】

〈修士課程・博士後期課程〉

自由記述欄については、学部比べて回答数が少なく、修士・博士後期課程に共通する内容も多く見られた。また、Q.04「文学研究科での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に答えてください。」および Q.05「文学研究科での勉学について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に答えてください。」という2つの質問項目にまたがるような記述も見られたことから、ここでは、修士課程および博士後期課程の Q.04 および Q.05 に対する回答全体を対象として、概評を記す。

ポジティブな評価の中には、自由な研究環境、少人数の演習等を通じて他の学生と切磋琢磨した経験、教員の指導を挙げるものが多かった。また、多くの課題をこなすことを通じて実力が涵養されたと回顧する記述もあった。

ポジティブな回答を例示する。(各回答の末尾の(M)は修士、(D)は博士後期の修了者の回答であることを、それぞれ示す。)

・私は私立大学から修士課程で京都大学に入学しました。京都大学文学研究科では、自身の興味・関心に基づいて自由に研究できました。特に指導教員の先生方は演習等で適切な指導をしてくださり、自分の研究発表に対するコメントだけではなく、先輩・同学年・後輩への意見・助言も自身のためになりました。一人一人の考え方や、研究スタイルを尊重してくれる環境で自由に研究できたことが何よりも良かったです。(M)

・難解な幅広い文学作品の原典を精読することによって文献研究の基礎力がついたこと。短期間に多くの課題レポートを仕上げることによって、より高い集中力と自信がついたこと。また、語学(ラテン語や第二外国語)は現在の研究にも間接的に役立っている(ラテン語やフランス語で書かれた文献を読むこともあるため)。(M)

・図書館の蔵書数やデータベースなど、研究を行う上でのリソースが豊かな点。教員の的確な指導。(M)

・研究への情熱と深い知識・思慮を持った方々に囲まれ、思考の進め方や研究への姿勢を学ぶことができた点。情熱的に語ってくださっているのを見て、ふとぴんときた、といった学び方をすることが多かった。あの方のあの感じ、という体感があるので、自分で実践してみるときも方向性が間違っていないかどうか判断しやすかった、と思っている。また、理想の研究態度を自然とイメージするようになった。勉強を進めるうえで、非常に支えになった。(M)

・研究室の先生方や先輩方に、研究者の方が研究者の方に対するのと同じ姿勢で接していただいた点。執筆中の論文にご意見を頂いた際に、このことについてはあなたの方が勉強しているけれども…とたびたび前置いてくださったことが象徴的だった。研究する時代・地域・分野のいずれもなかなか一致しない領域で、他の研究者の方々と知識や考えを尽くして意見を交わし合い、刺激になり合っただけなのではないか、同じようにして今接して下さっているのではないかとふと感じた。不勉強でたびたび弱気になったが、一人前のつもりで考えよう、と踏ん張ることができたのは、その

ように接していただいていたおかげだった。(M)

・私立大学と異なり、少人数制の授業が多く、先生に質問も直ぐに出来て、先生との距離が近いところが良かったです。変わらないであってほしい部分です。(M)

・適切な距離感で、自由に研究をさせていただいたこと。(D)

・いい意味で教員の意見を鵜呑みにしない力がついた。(D)

・単位取得などの利害的なことに目を向けること少なく、誠実で真摯な学問へ集中することができたことです。京大(の文学部)の守られるべき自由で誠実な学風のおかげだと思っています。(D)

・基本的に放任主義で、研究の進め方や時間の使い方を自分自身で決められるところ。在学中には戸惑うこともあったが、結果的に自分で研究を進めて論文を執筆する能力が身についた。(D)

・京都大学に入るまで、それまで完全には把握しきれなかった事柄について、入学後は担当教員の細やかな指導によって把握することができ、論文作成に導いていただいた。(D)

ネガティブな評価に関する具体的な記述は少なかったが、ポジティブな評価の理由ともなっている自由な研究環境が、一部の学生を戸惑わせる要因ともなっていることを示唆するものがあった。

以下に、ネガティブな回答を例示する。

・周囲の方と論じ合うことがあまりできなかった。(D)

・内向的な性格だということもあるが、特に専門分野については、自分の勉強しているものにも自信がない、ほかの方の領域はもっと分からない、と思いき後れしていた。勉強の対象を慎重に取り扱うことと、知らないことに食欲に向かっていくことを分け、両立しようと努めればよかった。(D)

・京都大学に限ったことではないが、図書館での貸し出しについて、基本的に借りれる期間が短いと感じた。また、人気のある(よく貸し出しのある)図書は仕方ないが、明らかに誰もが借りないであろう図書に関して、必要に応じて期間を延長することを可能にするなど、何らかの対策を検討していただけたらありがたい。それは、私に関して言えば、貸し出しが短いことで、研究に支障をきたすことが何度もあったからである。(D)

・英語を話すゲストスピーカーが少ないです。(D)

以上

アンケート名 2020年度_修士_修了後3年次アンケート

部局 文学研究科

対象者数 61

回答者数 13

回答率 21.3

結果 (Q.01) あなたが属していた系（専攻）を教えてください。

A: 文献文化学専攻・東洋系 (4票/30.8%)

B: 文献文化学専攻・西洋系 (2票/15.4%)

C: 思想文化学専攻 (0票/0%)

D: 歴史文化学専攻 (5票/38.5%)

E: 行動文化学専攻 (1票/7.7%)

F: 現代文化学専攻 (1票/7.7%)

G: 無回答 (0票/0%)



(Q.02) あなたの現況について教えてください。

A: 社会人（一般企業等で就労） (6票/46.2%)

B: 社会人（官庁・地方自治体等で就労） (0票/0%)

C: 社会人（教員・司書等の専門職として就労） (1票/7.7%)

D: 社会人（非就労） (0票/0%)

E: 学生・院生（京都大学） (6票/46.2%)

F: 学生・院生（他の大学） (0票/0%)

G: 学生・院生（その他の学校） (0票/0%)

H: その他 (0票/0%)

I: 無回答 (0票/0%)



(Q.03) 文学部（文学研究科）での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立つ能力や資質について、以下より選択してください（複数選択可）

A: 一般的な教養や知識 (5票/38.5%)

B: 社会的な常識 (2票/15.4%)

C: 専門的な知識と技術 (9票/69.2%)

D: 専門分野の研究能力 (8票/61.5%)

E: 国際感覚や国際性 (4票/30.8%)

F: 外国語の能力 (5票/38.5%)

G: 企画力や創造的思考力 (3票/23.1%)

H: 実行力 (4票/30.8%)

I: 協調性やチームワーク (2票/15.4%)

J: コミュニケーション能力 (2票/15.4%)

K: リーダーシップ (1票/7.7%)

L: 自分で問題を発見し、解決を図る能力 (10票/76.9%)

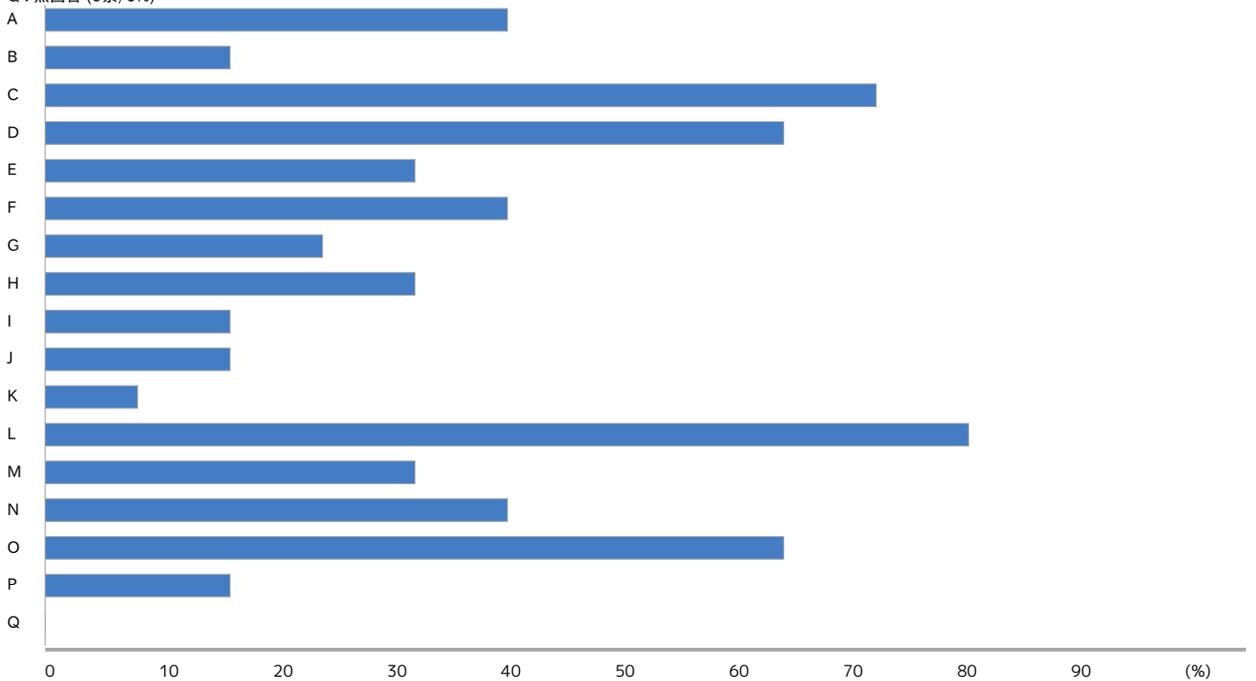
M: 自己管理能力 (4票/30.8%)

N: 倫理観 (5票/38.5%)

O: 自学自習の姿勢 (8票/61.5%)

P: その他 (2票/15.4%)

Q: 無回答 (0票/0%)



(Q.04) 文学部（文学研究科）での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に記述してください。

(Q.05) 文学部（文学研究科）での勉学について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に記述してください。

(Q.06) 振り返ってみて、あなたは文学部（文学研究科）で学べたことに満足していますか。

- A: 十分に満足している。(8票/61.5%)
- B: それなりに満足している。(5票/38.5%)
- C: どちらとも言えない。(0票/0%)
- D: あまり満足していない。(0票/0%)
- E: 満足できず、後悔している。(0票/0%)
- F: 無回答(0票/0%)



アンケート名 2020年度_博士_修了後3年次アンケート

部局 文学研究科

対象者数 26

回答者数 10

回答率 38.5

結果 (Q.01) あなたが属していた系(専攻)を教えてください。

- A: 文献文化学専攻・東洋系 (0票/0%)
- B: 文献文化学専攻・西洋系 (1票/10%)
- C: 思想文化学専攻 (3票/30%)
- D: 歴史文化学専攻 (2票/20%)
- E: 行動文化学専攻 (3票/30%)
- F: 現代文化学専攻 (1票/10%)
- G: 無回答 (0票/0%)



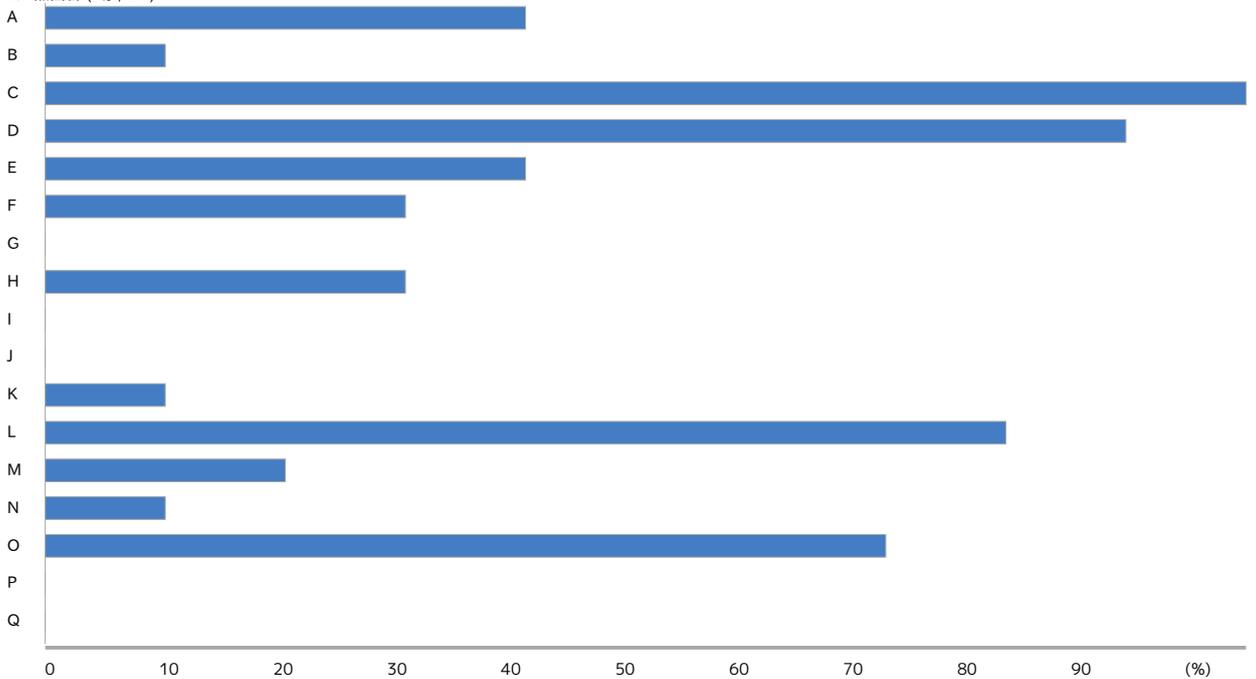
(Q.02) あなたの現況について教えてください。

- A: 社会人(一般企業等で就労) (0票/0%)
- B: 社会人(官庁・地方自治体等で就労) (0票/0%)
- C: 社会人(教員・司書等の専門職として就労) (8票/80%)
- D: 社会人(非就労) (1票/10%)
- E: 学生・院生(京都大学) (0票/0%)
- F: 学生・院生(他の大学) (0票/0%)
- G: 学生・院生(その他の学校) (0票/0%)
- H: その他 (1票/10%)
- I: 無回答 (0票/0%)



(Q.03) 文学部(文学研究科)での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について、以下より選択してください(複数選択可)

- A: 一般的な教養や知識 (4票/40%)
- B: 社会的な常識 (1票/10%)
- C: 専門的な知識と技術 (10票/100%)
- D: 専門分野の研究能力 (9票/90%)
- E: 国際感覚や国際性 (4票/40%)
- F: 外国語の能力 (3票/30%)
- G: 企画力や創造的思考力 (0票/0%)
- H: 実行力 (3票/30%)
- I: 協調性やチームワーク (0票/0%)
- J: コミュニケーション能力 (0票/0%)
- K: リーダーシップ (1票/10%)
- L: 自分で問題を発見し、解決を図る能力 (8票/80%)
- M: 自己管理能力 (2票/20%)
- N: 倫理観 (1票/10%)
- O: 自学自習の姿勢 (7票/70%)
- P: その他 (0票/0%)
- Q: 無回答 (0票/0%)



(Q.04) 文学部（文学研究科）での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に記述してください。

(Q.05) 文学部（文学研究科）での勉学について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に記述してください。

(Q.06) 振り返ってみて、あなたは文学部（文学研究科）で学べたことに満足していますか。

- A: 十分に満足している。(9票/90%)
- B: それなりに満足している。(0票/0%)
- C: どちらとも言えない。(0票/0%)
- D: あまり満足していない。(0票/0%)
- E: 満足できず、後悔している。(1票/10%)
- F: 無回答(0票/0%)

A

E